# BSデジタル放送25周年

# 視聴率ゼロからのスタート

## 創意工夫重ね独自の成長

BSデジタル放送が12月1日に25周年、そして4K8K衛星放送は7周年を迎えた。日本の衛星放送はこの四半世紀で技術進化を遂げ、視聴形態の多様化、通信・放送融合、そしてネット配信の急拡大という市場変化のただ中にある。BSデジタル放送の黎明期から4K8K放送の現在までを振り返り、放送市場に果たしてきた役割を整理するとともに、今後を展望する。

### 地デジ・薄型TV普及の布石に

BSデジタル放送は2000年12月1日に開始がBSデジタル放送である。

当時、地上波放送はアナログ方式であり、高画質化・多チャンネル化・データ放送など新たなサービスを実現するための帯域確保が困難であった。

そこで衛星放送を活用し、デジタル技術による高効率伝送を組み合わせることで、新しい放送サービスの実験場かつ普及拠点として整備されたのがBSデジタル放送である。

ビス、CMと連動した詳細情報やアンケート、さらにはショッピングまで、さまざまな双方向型サービスを用意。

当初は独立データ放送事業者も複数社あり、天気情報や新聞データ、生活・趣味の情報、音楽プロモーションといったジャンルでコンテンツを提供していた。

通信網の進化でインターネットが社会インフラ化し、スマートフォンが急速に普及する中で、「新たなサービス」は台頭しなかったが、BSデジタル放送はメディアとして独自の成長を遂げていく。

11月21日のA-PAB記者発表会では、NHK専務理事、BS民放5局の社長、NHKの桑子真帆アナウンサー、料理家・食育インストラクターの和田明日香氏、ヨンハチさんが登壇した

BSデジタル放送開始から3年後の2003年12月1日、三大都市圏で地上デジタルテレビ放送がスタートし、2011年に全国への「完全移行」が実現した。

HDTVやデータ放送、EPG、1セグ利用の携帯端末向け放送など、アナログテレビではあり得なかった付加価値をテレビにもたらしたが、HDTVの薄型大画面テレビの普及を含め、BSデジタル放送がその布石となったことは間違いない。

そして2018年12月1日、NHK、民放キー局をはじめとする11事業者／19chでスタートしたのが4K8K衛星放送だ。

総務省は、「東京五輪／パラリンピックの時点で多くの家庭が市販のテレビで4K・8K番組を楽しんでいること」を目標とした4K・8K推進のためのロードマップを策定。放送サービス高度化推進協会（A-PAB）が中心となり、定期的な普及推進キャンペーンを展開し、4K8K衛星放送受信可能機器の普及を後押ししていく。

その受信可能機器の台数は21年に1000万台、22年に1500万台、24年に2000万台、そして今年10月時点で2400万台を超え、年内の2500万台達成が見えている。

### BS4Kは新たな段階へ

一方で、BS4K放送動きがある。BS4K放送については、総務省の衛星放送ワーキンググループ（WG）で、TBSがBS4K放送の経営の厳しさを具体的に示したことを契機に、大手新聞が相次いでBS民放が2027年のBS4K放送の免許更新はせず、同放送から撤退するとの報道を展開した。

11月に示された衛星放送WGの第2次取りまとめ案においても、BS4K放送を、4Kコンテンツを視聴者に届ける「太い幹」との認識を示すとともに、「放送業界として次の展開を戦略的に検討していくべき状況」と、民放キー局系BS4K放送の現状にも配慮する考えも併記している。

その一方で、4Kコンテンツをインターネット配信などに多面的・複線的に展開していくことが有効との判断を示した。

A-PABの加増良弘理事長は、11月21日の会見で、これまで4K・8K放送の普及をメインにしてきた同協会の役割を、高度な放送技術を日本のコンテンツ産業に生かす役割にシフトしていく考えを示唆する。

また同理事長は「4Kはコンテンツ産業にとって重要な要素だが、放送としては間尺に合っていない」と語り、2次取りまとめ案には民放BS4K放送の現状が考慮されていると評価した。

日本民間放送連盟も「民放のBS4K放送は費用回収が不可能な状態」という指摘を「正鵠（せいこく）を射たもの」と評価するとパブリックコメントを出している。

総務省はパブリックコメントを受け、12月中に「第2次取りまとめ」を公表する。民放BS4K放送の方向性が明らかになっていくだろう。

## 25周年キャンペーン

### BS民放5局がコラボ番組

### 4K8K生放送で「N響 第9」

NHK BS8K、BSP4K『N響「第9」演奏会』

現在、NHKとBS民放5社は、共同企画「BSデジタル放送25周年キャンペーン」を展開中だ。

BS民放5局が特番を編成。11月後半から順次放送している。BS民放5局は11月後半、「開局25周年 NHK BSで29日午後7時30分から、特集時代劇『丹下左膳～大岡越前外伝～』を放送する。

BSフジは28日午後9時から、『日本遺産物語』を放送する。日本にある世界遺産を訪ねる同番組では今回、俳優の黒谷友香が、世界文化遺産の「百舌鳥・古市古墳群」を旅する。

『N響「第9」演奏会』を生放送で届ける。年末ベンの交響曲第9番「合唱つき」で、指揮者に米国の名匠レナード・スラットキンを迎える。またNHK BSで29日午後

### 世界遺産 古墳群の旅も

3世紀の半ばに突如として誕生した前方後円墳は、4世紀後半から5世紀の後半にかけてさらに大型化し、大阪平野の南部に数多く築かれた。

その多くがいまだ発掘されておらず、謎に包まれたままだという。今回番組では、多くの研究者を訪ねて話を聞くとともに、古市古墳群とつながりを持つ近隣の古墳や遺跡などから古代の謎を解き明かす。

BS デジタル 25 周年
4K8K 放送 7 周年
BS 新時代 特集

祝 BS デジタル 25 周年 /4K8K 放送 7 周年 BS 新時代　令和 7 年 12 月

B-SAT
㈱放送衛星システム
代表取締役社長
角 英夫
〒183-0005
東京都府中市若松町 1-3-5
※本社を移転しました。
TEL：042-370-1190（代表）
https://www.b-sat.co.jp/

TSP
㈱東京サウンド・プロダクション
代表取締役社長
説田 比登志
〒106-0031
東京都港区西麻布2-24-11
麻布ウエストビル
TEL 03-5466-5645
FAX 03-5466-5636

TBS ACT
株式会社 TBS アクト
〒107-6109
東京都港区赤坂 5-2-20
赤坂パークビル 9F
Tel.03-6230-8200

撮影機材レンタル
ings-jbs
大阪・福岡
https://www.ings-jbs.jp

一般社団法人 衛星放送協会
Japan Satellite Broadcasting Association
会長
滝山 正夫